

# 令和5年度 第2回岩手県土砂災害発生危険基準検討有識者会議

日時：令和5年9月22日（金）

午後2時～3時30分

会場：トーサイクラシックホール

（県民会館）第2会議室

## 次 第

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 出席者紹介

### 4 議 事

- (1) 第1回有識者会議の内容
- (2) 使用するデータ期間
- (3) CL対象災害の選定
- (4) 土壌雨量指数下限値の設定
- (5) 除外メッシュの設定
- (6) 今後の予定

### 5 閉 会

令和5年度 第2回 岩手県土砂災害発生危険基準検討有識者会議  
構成員・出席者名簿

構成員

機 関	職 名	構成員	随行者
岩手大学	名誉教授	井良沢 道也	
国土交通省国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 土砂災害研究室	室長	瀧口 茂隆	
国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	副所長	木村 晃	
国土交通省 気象庁 盛岡地方气象台	防災管理官	三上 康治	土砂災害気象官 上澤 健一
岩手県復興防災部 防災課	防災危機管理監	駿河 芳典	
岩手県県土整備部 砂防災害課	総括課長	戸来 竹佐	

事務局

機 関	職 名	構成員	備 考
岩手県県土整備部 砂防災害課	砂防災害担当課長	吉田 直矢	
岩手県県土整備部 砂防災害課	主任主査	武部 洋平	
岩手県県土整備部 砂防災害課	主査	鈴木 正義	
岩手県県土整備部 砂防災害課	技師	角掛 駿	
岩手県県土整備部 砂防災害課	技師	阿部 晋太郎	
(株)建設技術研究所砂防部	グループリーダー	笹山 隆	
(株)建設技術研究所砂防部	主任技師	戸舘 光	

日時：令和5年9月22日(金) 14:00～15:30

場所：トーサイクラシックホール（県民会館）

第2会議室

## 1 議事概要

### (1) 第1回有識者会議の内容

瀧口構成員：緊急輸送道路を対象としないというのは有識者の意見ではない。管理者と確認を取った方がよいというのが意見である。

→事務局：資料の記載について確認のうえ修正する。

### (2) 使用するデータ期間

井良沢座長：使用するデータは災害のみ2005年以前の事例を取り込むが、応答曲面や降雨履歴の算出には2006年以降のデータのみとする事務局案でよいか。

→構成員：異議なし。

### (3) CL対象災害の選定

駿河構成員：RBFNという言葉の意味がよくわからない。防災関係の担当者には用語がわかりにくいところがある。

→井良沢座長：今後、県から市町村にCL見直しについて説明する機会があると思う。その際に専門用語を説明する資料があるとよい。

→事務局：用語説明の資料を用意する。

井良沢座長：土石流事例の上流域雨量を参照する方法は、流域全体が何メッシュにもまたがるところで雨量の大きいメッシュを使用することということか。

→事務局：考え方はそのとおりである。ただし、今回はこの手法を採用してもCL改善が見られないことから採用しないこととした。

井良沢座長：CL対象災害から除外する事例の考え方について、降雨複数回を3回以上としているが回数に根拠はあるか。

→瀧口構成員：基本的な考えは基準に基づいているのでよいと考える。降雨の回数については都道府県により状況が異なるため、全国的な統一基準は無い。ただ、地震時の暫定基準の解除の考え方に似ていることもあり、問題無いと考える。

瀧口構成員：災害発生後の降雨が複数回発生とあるが、災害の発生していない雨という認識で間違いないか。

→事務局：そのとおりである。災害非発生降雨の回数をカウントしている。

瀧口構成員：岩泉町の CL0.9 となる災害事例のヒアリングは詳細な情報を見せながら実施したのか。またその資料を今確認できるか。

→事務局：ヒアリング時には災害詳細表という資料を提示した。資料をスクリーンに表示する。

→瀧口構成員：写真からはまあまあの規模の災害に見える。確かにこの事例を CL 対象災害から除外することは難しいと考える。

#### (4) 土壌雨量指数下限値の設定

瀧口構成員：60 分雨量の上限値については、効果が無いのであれば他県でも採用していないため、廃止して運用してみてもよいと思う。

#### (5) 除外メッシュの設定

井良沢座長：緊急輸送道路は除外メッシュ設定において考慮しているのか。

→事務局：緊急輸送道路は道路管理者と協議のうえ、除外メッシュには考慮しないこととした。

木村構成員：CL 超過頻度が現行に対し増加している市町村があるが、5 km メッシュと 1 km メッシュの降雨データ特性の違いによるものが影響しているということか。

→事務局：そのとおりである。現行は 5 km メッシュの降雨データを使用して作成した CL であるが、今回の検証計算においては条件を揃えるため 1 km メッシュの降雨データを使用したためにこうした結果になったと考える。

瀧口構成員：市町村の境界付近メッシュについて、いずれの市町村にも属するメッシュにするとか、どちらの市町村に属するか、ということを手早く切り替えられるようにできると市町村の要望に迅速に答えられると考える。

駿河構成員：除外メッシュを設定すると、そのメッシュではキキクル上で赤や紫にならなくなるということか。市町村でも理解していない可能性があるため周知が必要と考える。

→三上構成員：除外メッシュは大雨警報の対象から外れるため、赤や紫といった色がつかなくなる。

→瀧口委員：除外メッシュは黒で表現するなり、他のメッシュと異なる表現ができるとよい。気象庁本庁での対応が必要となるため、気象台より意見をあげてもらう方がよい。

井良沢座長：岩手県では警戒区域等の設定時に住民と会議をしている。そうした場で CL の説明もできるとよい。

#### (6) 今後の予定

質疑等無し。

—以上—